

柏の葉 KASHIWA-NO-HA  
International Campus Town Initiative  
国際キャンパスタウン構想

2014 充実化版



KASHIWA-NO-HA

柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会





# 構想の全体像

柏の葉国際キャンパスタウン＝公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市



## 背景と目的

我が国では、人口減少や少子高齢化、環境・健康・防犯・防災、経済活力などの様々な課題への対応に加え、ライフスタイルの多様化などによる街の居住者・利用者のニーズの変化に対応した、新たな都市像の確立が求められている。

本構想が対象とする柏の葉地域は、首都圏の郊外に位置する鉄道沿線地域であるが、我が国有数の大学や公的研究機関、多くの企業が立地しており、世界水準の先端的都市形成を先導するモデルとして、高いポテンシャルを持つ。その実現には、大学や企業が主導する先導的なプロジェクト群に加えて、市民を含めた学びや交流を通じて、新たな時代のコミュニティやライフスタイルを創り出すことが欠かせない。また、そのポテンシャルを生かすことで、単なる郊外住宅地域ではなく、自らの地域で新たな産業や都市の活力・文化を生み出す自立した都市を形成することが可能となる。本構想は、こうした観点に立ち、地域の関係者である千葉県・柏市、大学、民間企業、市民・NPO 等が連携・協働し、こうしたポテンシャルを最大限に生かした先端的で自立した都市づくりを具体的に実践するための構想として、2008年3月に策定されたものである。

構想策定後、5年を経過し、事業の進捗等に伴いまちの環境は大きく変化している。東日本大震災や原発事故など、柏市並びに柏の葉エリアが直面する新たな課題も生まれている。これらを受け2011年には、当初からのコンセプトをベースにしながら、課題解決モデルとしての「環境共生都市」「健康未来都市」「新産業創造都市」を「公・民・学の連携、知的交流」の中から生み出していくというまちづくりのコンセプトを改めて示し、これらの柱の元にプロジェクトの一層の推進を図っている。今般、こうした状況を踏まえながら構想の内容について充実化を行ったものである。

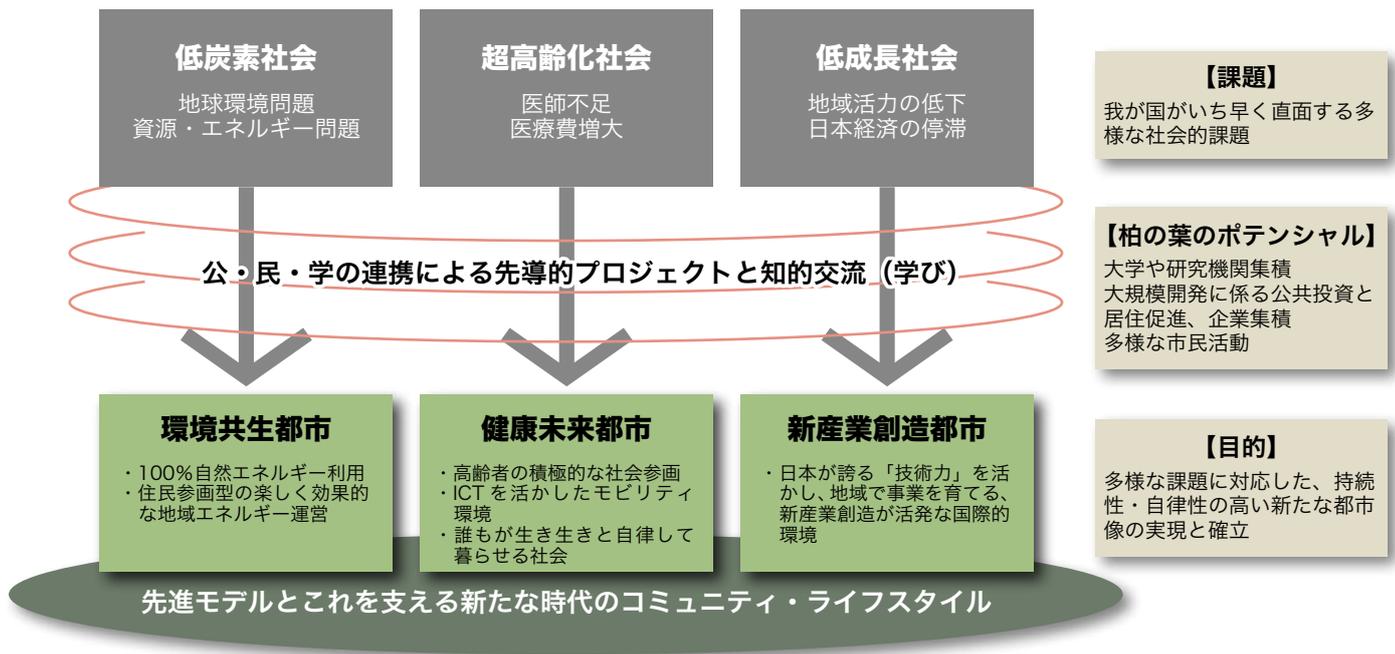


図 社会的課題とこれに対する課題解決モデル都市づくりの必要性

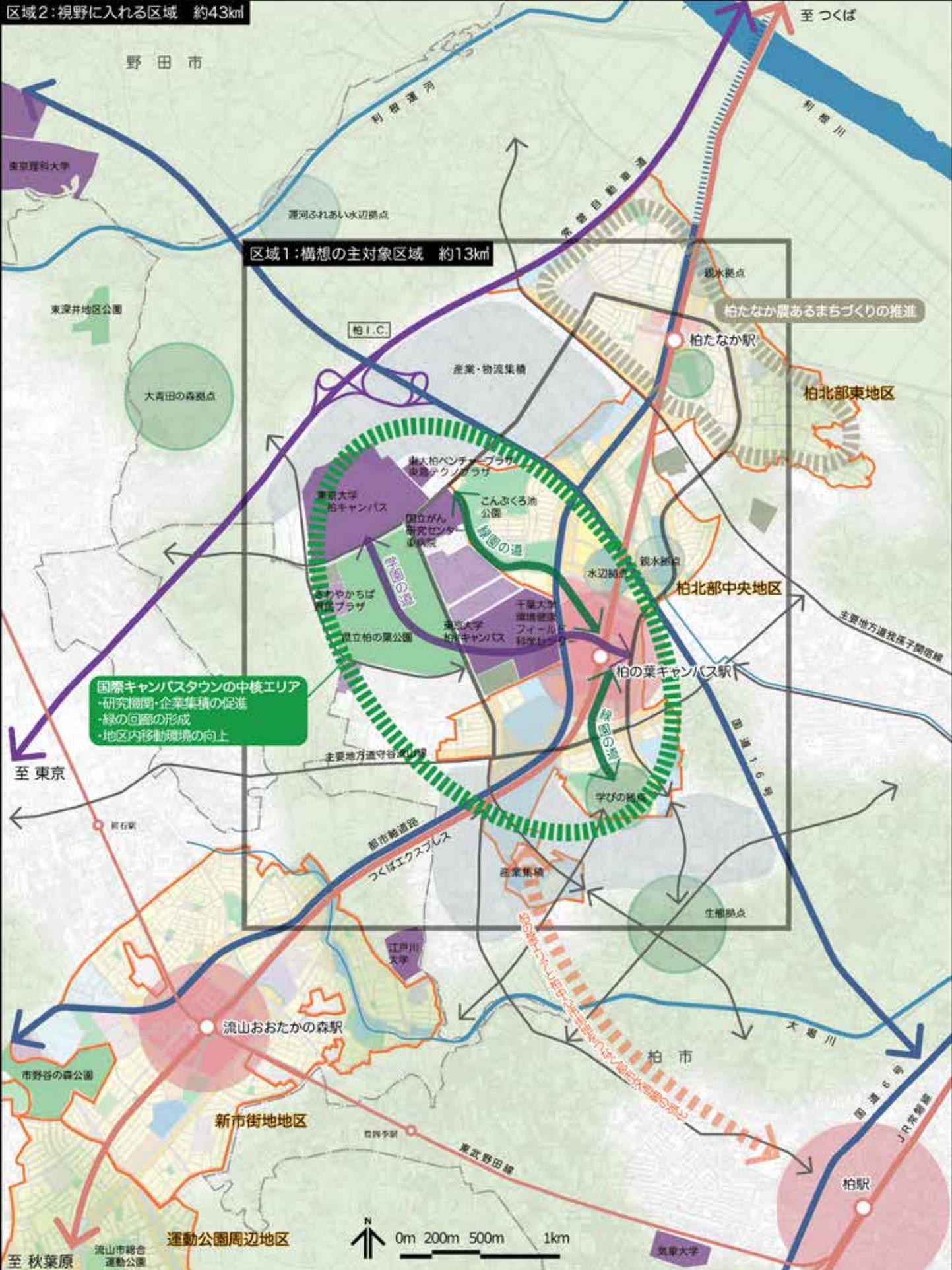


## 対象区域

本構想の対象区域は、主として柏北部中央地区及び一部の柏北部東地区の区画整理地区を含む13km<sup>2</sup>(区域1)とする。ただし、緑地のネットワーク形成や柏駅とのつながり等については、広域的な考え方も必要であるため、柏駅や利根運河、流山市も含めた43km<sup>2</sup>(区域2)を区域とする。

区域2: 視野に入れる区域 約43km

区域1: 構想の主要対象区域 約13km



# 構想の全体像

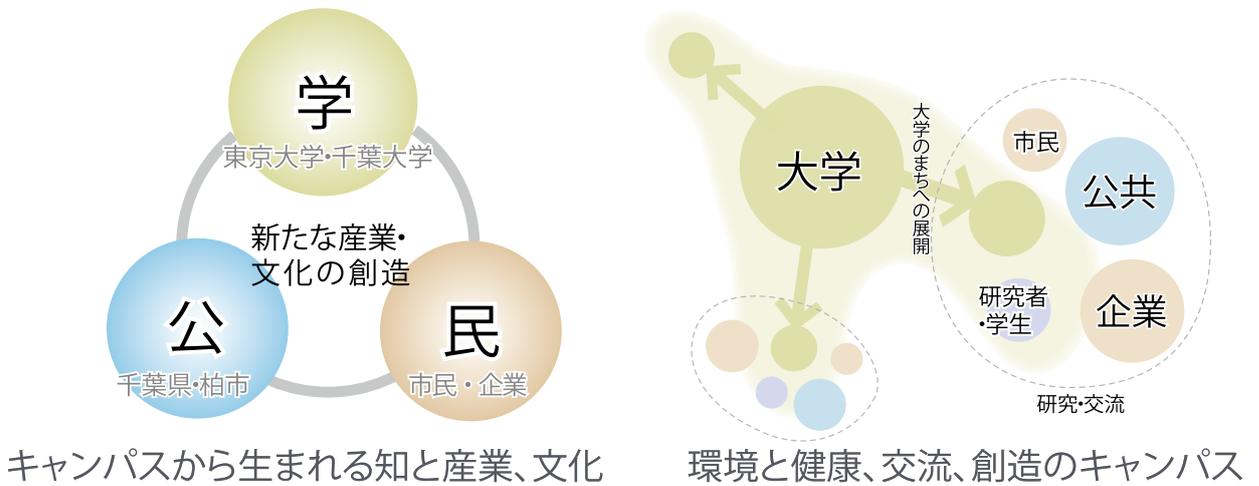
柏の葉国際キャンパスタウン＝公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市



## 構想の理念 “大学とまちの融和”

“大学とまちの融和”、すなわち、まち全体が大学のキャンパスのように緑豊かで質の高い空間となり、また、知的交流（学び合い）の場となることが、柏の葉国際キャンパスタウン構想の目指す都市の姿である。

その実現のために、地域社会に必要な公的サービスを担う「公」、地域の活力と魅力の向上を担う「民」、そして専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「学」の各主体が、従来の枠組みを超えて連携する新たなまちづくりの仕組みを構築する。すなわち、従来の「産・学・官」に生活者の目線を加えた、「公・民・学の連携」を背景とした知的交流（学び合い）の中から、新たな知と産業、文化を創造する「国際学術研究都市」となり、これを通じて、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される、持続性・自律性の高い「次世代環境都市」となること。これが柏の葉国際キャンパスタウン構想の理念である。



**【公】**＝行政（官）、非営利組織（NPO）など、地域社会に必要な公的サービスを担う  
**【民】**＝市民、経済活動を行う企業など、地域の活力と魅力の向上を担う  
**【学】**＝大学などの教育研究機関や専門家など、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う

図 構想の理念 「公・民・学の連携」による大学とまちの融和



## 構想の位置づけとフォローアップ

この構想は、千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の共同調査で作成しており、新たな地域ビジョンに基づく新しい政策テーマを先取りしたものであり、現在の法制度や政策を超えた提案も含まれている。構想の実現にあたってすでに上位計画や施策に反映されているものもあるが、今後とも各団体内部での更なる検討や関係機関との調整を行い、制度の改善や上位計画へのフィードバック、フォローアップ、そしてこの構想の見直しも含めて運用していくこととする。そのため、「公・民・学」が共同で設立・運営する柏の葉アーバンデザインセンター[UDCK]を事務局として、継続的にフォローアップのための委員会並びにテーマ別の部会を設置し、各団体の協力・連携のもと本構想を推進することとする。

柏の葉エリアをモデルに先行的・実験的施策を実施し、その成果・知見を柏市や千葉県全域、全国、全世界に展開していく。

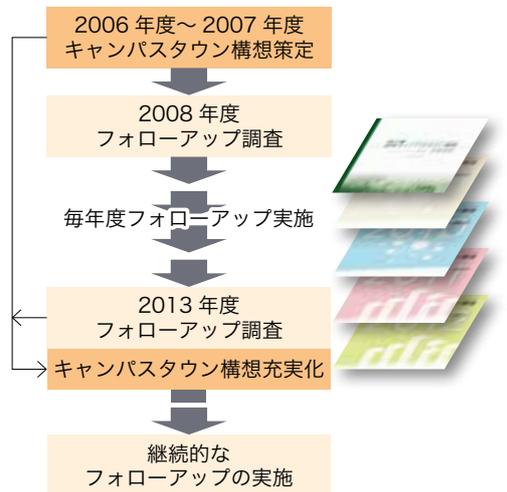


図 フォローアップ継続による構想の推進



## 構想の全体構成 8つの目標と 27の方針

<b>柏の葉国際キャンパスタウン</b> II <b>公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市</b>	<b>目標1</b> <b>環境と共生する田園都市づくり</b> 豊かな自然と都市のみどりにふれあいながら、環境にやさしい暮らしを楽しめるまち	方針 1-1 「緑地ネットワーク」を保全し強化する 街区の緑化率25%、まちの緑被率40%維持（自然をつなぐ） 方針 1-2 持続性の高い開発や建築の「柏モデル」を普及する 個別開発におけるCO2削減率35%達成（技術をつなぐ） 方針 1-3 市民主体で環境共生型のライフスタイルを推進する（人をつなぐ）
	<b>目標2</b> <b>創造的な産業空間の醸成</b> 創造的な交流にあふれ、職住が一体となった自立したまち	方針 2-1 TX沿線に集積する最先端技術・研究を活かす世界水準の創業環境を実現する 方針 2-2 大企業や研究機関などに対する魅力を明確に発信し、立地を促し、新産業創造コミュニティを充実させる 方針 2-3 既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る
	<b>目標3</b> <b>国際的な学術・教育・文化空間の形成</b> 一生「学び」を楽しむことのできる、知的好奇心を刺激するまち	方針 3-1 国際化に対応した生活環境を整え、世界をリードする研究・教育機能を強化する 「10の研究・教育機関の誘致」 方針 3-2 世界の最先端で活躍する人材を育成する基礎的な教育環境を充実する 方針 3-3 大学と連携した住宅を提供し、学びのあるライフスタイルを推進する 方針 3-4 国際キャンパスタウンにふさわしい文化活動・芸術活動を育成する
	<b>目標4</b> <b>サステナブルな移動交通システム</b> 環境負荷が少なく、自由で楽しい移動交通が、暮らしの質を高め活力を育むまち	方針 4-1 公共交通の充実により環境負荷の低減および都市間・地区内の移動を円滑にする 方針 4-2 歩行者と自転車の楽しい移動を促すネットワークをつくる 「自転車分担率の10%増加」 方針 4-3 自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する 「自動車分担率の10%低下」 方針 4-4 ITS情報システムを活用したモビリティマネジメントを行う
	<b>目標5</b> <b>健康を育む柏の葉スタイルの創出</b> 若者から高齢者まで地域の中で一生健康で暮らすことのできるまち	方針 5-1 健康で快適な暮らしを支える生活空間、歩行環境を充実させる 方針 5-2 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる 方針 5-3 人々が生きがいをもって支え合うコミュニティを育む 方針 5-4 最先端の知識と技術を用いた健康サポートを行う
	<b>目標6</b> <b>公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施</b> 支えあいによって地域の暮らしと活力を持続・向上させる自律的なまち	方針 6-1 暮らしの質を高め、地域への愛着を育む（住民満足度の維持・向上、地価水準の維持） 方針 6-2 柏の葉独自の価値を育み、発信する（交流人口の増加、外部からの評価） 方針 6-3 柏の葉キャンパス駅周辺を起点に公・民・学の連携による自律した都市経営の仕組みを整える
	<b>目標7</b> <b>質の高い都市空間のデザイン</b> 大学キャンパスのように豊かな緑のなかに賑わいが映える快適なまち	方針 7-1 国際キャンパスタウンを象徴する緑溢れるオープンスペースと街並みを形成する 方針 7-2 豊かな緑地環境と都市の活力とが調和した緑園のまちを形成する 方針 7-3 UDCKを中心にアーバンデザインを推進する
	<b>目標8</b> <b>イノベーション・フィールド都市</b> 常に最先端の取りくみにふれあいながら、変化しつづけるまち	方針 8-1 実証実験の支援と実現プログラムを提供する 方針 8-2 企業や研究機関へのPRを通じて新たな実証実験を呼び込む 方針 8-3 実験の成果を評価・蓄積するとともに、柏の葉モデルとして市全域。全国・世界に普及・展開する

# 環境と共生する田園都市づくり

豊かな自然と都市のみどりにふれあいながら、環境にやさしい暮らしを楽しめるまち

方針  
1-1

## 「緑地ネットワーク」を保全し強化する 街区の緑化率 25%、まちの緑被率 40%維持 (自然をつなぐ)

地域で育まれてきた豊かな自然環境を継承した環境共生型の都市を実現するため、地域を取り囲む水系をつなぎとめ、生態環境の軸を保全、創出する。さらに地形や緑、農地などを重要な資源として保全し、それらをつなぐ緑のネットワークを形成、強化する。

重点施策	1) 公共空間整備を通じた骨格的な緑地ネットワークの保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ こんぶくる池公園の保全・整備</li> <li>■ 2号調整池の多自然型整備</li> <li>■ 2号近隣公園・緑地・1号調整池が連携したせせらぎの再生</li> <li>■ 野馬土手遊歩道周辺の緑地環境の保全・創出</li> <li>■ 緑のコアをつなぐ主要街路における街路樹の整備</li> <li>■ 継続的な緑の維持管理に係る財源の確保</li> </ul>
	2) 民地内の緑地保全・創出の誘導による緑地環境の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 民地内緑化の指導・誘導等による街区内緑化 25%の推進</li> <li>■ 自然緑地の保全等に係る税の減免・補助等の取り組み</li> </ul>
	3) 農地の「保全活用システム」整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 区画整理エリア内の優良農地の保全・活用「柏たなか農あるまちづくり」</li> <li>■ 菜園付き住宅の供給推進</li> <li>■ 農商工大連携による都市近郊農業の育成に向けた取り組み</li> </ul>

緑化率 : 建築物の敷地面積 (ここでは各街区の全体面積) に対する緑地面積の割合のこと。

緑被率 : 航空写真によって上空から見たときの緑におおわれている土地の割合。道路や公園、農地、樹林地等も含む。

方針  
1-2

## 持続性の高い開発や建築の「柏モデル」を普及する 個別開発における CO2 削減率 35%を達成 (技術をつなぐ)

地環境問題がグローバル化しつつある中で、最先端の環境技術を取り入れた環境負荷の小さな開発や建築により、従来型開発と比較して CO2 の 35%削減した持続性の高い環境共生型都市形成を「柏モデル」として普及し、環境空間を形成する。

重点施策	1) 高効率なエリア・エネルギー管理システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ エリア・エネルギー管理システムの導入と拡張</li> <li>■ 太陽光やバイオマス等の再生可能エネルギーの導入の促進</li> </ul>
	2) 環境技術の複合利用により、35%以上の CO2 削減を実現するモデル街区の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駅周辺街区におけるモデル的な環境建築</li> <li>■ 公共建築物 (柏の葉小学校) におけるモデル的な環境建築</li> <li>■ 戸建住宅地区におけるモデル街区の形成</li> </ul>
	3) 柏独自の「環境まちづくりガイドライン」の運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「CASBEE 柏」の運用と普及</li> <li>■ 低炭素型開発を推進する規制・誘導方策</li> <li>■ 農商工大連携による都市近郊農業の育成に向けた取り組み</li> </ul>
	4) サスティナブルキャンパスの実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東京大学柏キャンパス</li> <li>■ 千葉大学柏の葉キャンパス</li> </ul>

エリア・エネルギー管理システム : 個々の建物単位のエネルギー管理システムを統合し、地域レベルで発電量・受電量・消費電量を一元管理する仕組み。略称 AEMS。☞右ページ図

CASBEE 柏 : CASBEE は建築物がどれだけ環境に配慮されたものであるかを評価するシステム。柏市では、地域特性に合わせて独自の評価項目や評価基準を加えた「CASBEE 柏」を作成し、柏市建築物環境配慮制度として 2011 年 1 月より本格運用している。

方針  
1-3

## 市民主体で環境共生型のライフスタイルを推進する (人をつなぐ)

市民のライフスタイルにおける意識付けから、身近な取り組みや地域の環境保全活動の充実を進めるために、市民や企業の環境行動を普及・促進し、活動を支援する。

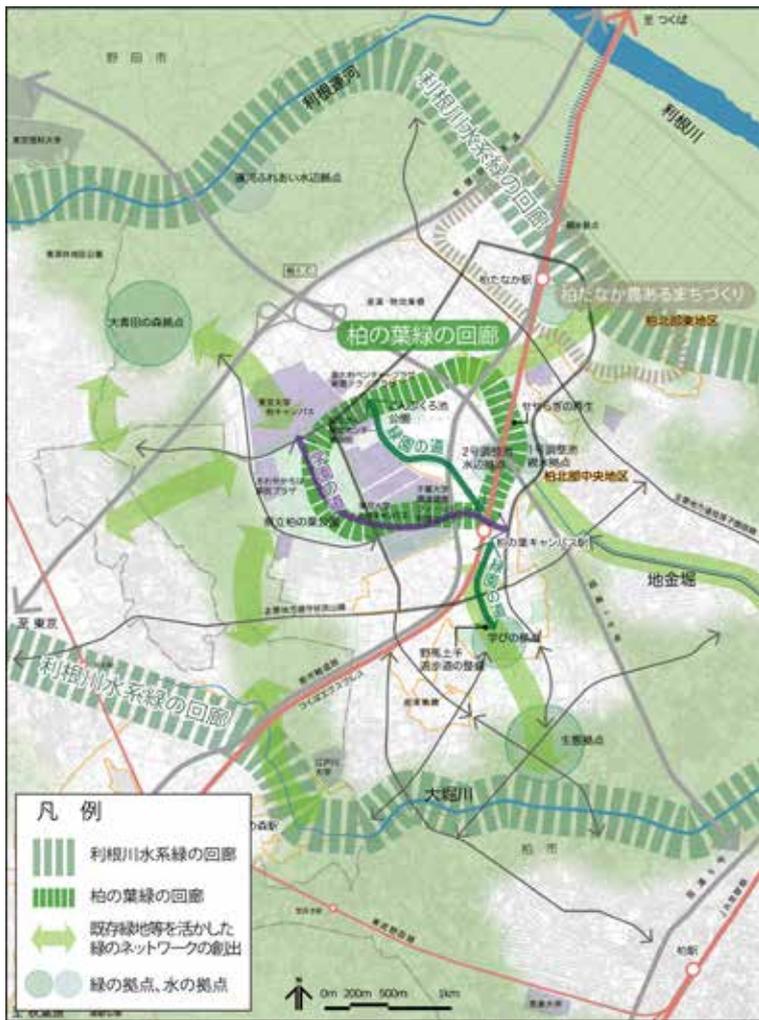
重点施策	1) 楽しむ「エコ・デザイン・プログラム」による環境への関心や理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スマートシティミュージアム等における環境教育プログラムの実施</li> <li>■ スマートシティツアー等の開催</li> <li>■ エコに係る各種啓発活動、かしわ環境フェスタ、かしわエコサイトなど</li> <li>■ エコクラブなど、エコ活動でつながる地域コミュニティの育成</li> </ul>
	2) 家庭レベルでの見える化促進と「エコ・ポイント」の普及・循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CO2 見える化ナビの導入促進</li> <li>■ ホワイト証書や地域ポイントと連動したカーボンオフセット制度の構築</li> </ul>

スマートシティミュージアム : 「スマートシティに暮らす」という未来のライフスタイルを仮想体験できるミュージアムとして、2013 年 3 月に柏の葉キャンパス駅東口に開館。

カーボンオフセット制度/ホワイト証書 : 市民が省エネに取り組んだ成果 (削減した CO2 削減量) を「環境価値」として認証し、これに対して「ホワイト証書」を発行。これを企業に販売することで、購入企業はこれを CO2 の自社削減分としてカウントできる仕組み。☞右ページ図

豊かな自然を活かした環境共生型の都市基盤の上に、最先端の環境技術を導入した開発を進め、そこに展開されるコミュニティ・ライフスタイルとともに育成する、柏の葉モデルの環境共生都市をつくる

■緑地ネットワークの構造図 — 柏の葉緑の回廊の構築



■柏の葉における環境共生都市の考え方

環境共生型の都市空間とライフスタイルのなかに、最先端の技術が生きるまちを目指す。

<p><b>人をつなぐ</b></p> <p>コミュニティ参加・環境共生ライフスタイル</p>	
<p><b>技術をつなぐ</b></p> <p>最先端の環境技術 (創エネ・省エネ・畜エネと管理制御)</p>	
<p><b>自然をつなぐ</b></p> <p>環境共生型の都市計画</p>	

■CO<sub>2</sub>見える化ナビ

環境を意識するライフスタイルのベースとなるCO<sub>2</sub>見える化ナビの導入を広げる。



■カーボンオフセット事業の仕組み

ホワイト証書と連動したカーボンオフセット制度を柏市内企業との連携により創設し、家庭レベルから企業レベルまで、環境への貢献が地域で循環する仕組みを構築する。

**カーボンオフセットとは？**

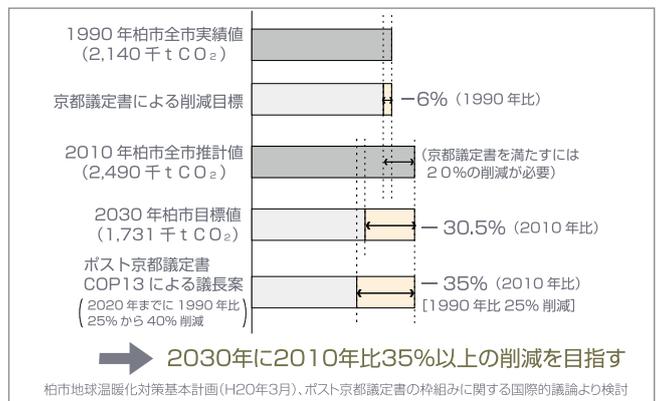
温室効果ガス (CO<sub>2</sub>) を取引する仕組みです。市内企業の活動で、どうしても排出してしまうCO<sub>2</sub>量を、協賛家庭が省エネで削減したCO<sub>2</sub>量でまかなう(差し引きゼロ)制度です。

**柏市カーボンオフセット事業の仕組み**

事業運営するのは、「一般社団法人かしわ街エコ推進協議会」になります。市内の大学、市民グループ、企業、柏市が参加している団体で、地域から温暖化対策に取り組んでいます。家庭が削減したCO<sub>2</sub>量を購入し、自社削減分とする、「企業サポーター」を募集します。

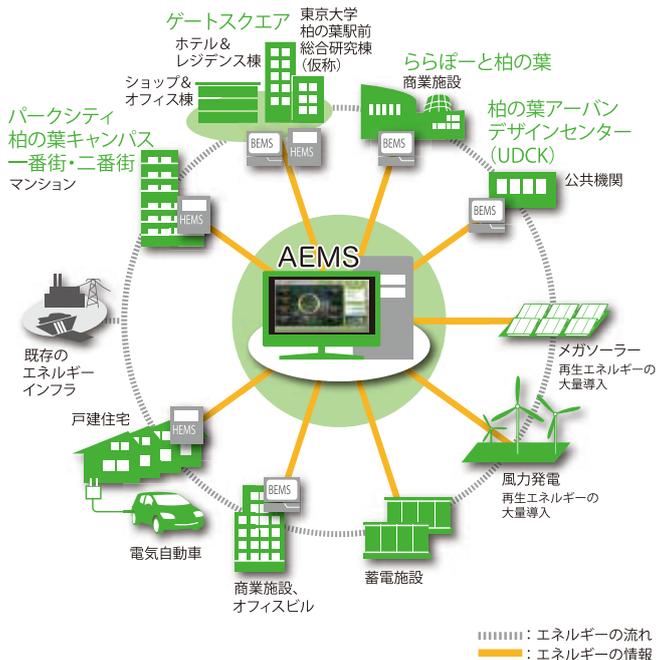
■CO<sub>2</sub>排出量削減の考え方

柏市地球温暖化対策計画、ポスト京都議定書の国際的な枠組みに関する議論を踏まえ、2030年には2010年比35%以上のCO<sub>2</sub>削減を目指して取り組みを進める。



■エリア・エネルギー管理システム (AEMS) イメージ

柏の葉キャンパス駅前街区では、発・受電量、消費電力量などエネルギー利用と地域互換の最適化を実現するコアとして「エリア・エネルギー管理システム (AEMS) を新たに構築。エリア拡張と機能の充実を図りながら将来的には柏の葉全域で「スマートグリッド」機能を備えたネットワークの構築を目指す。



# 創造的な産業空間の醸成

創造的な交流にあふれ、職住が一体となった自立したまち

方針  
2-1

## TX沿線に集積する最先端技術・研究を活かす世界水準の創業環境を実現する

つくばー柏の葉ー秋葉原の産業連携軸「TXーナレッジ・ネットワーク」を構築し、研究開発過程のスパイラルアップによる技術開発と需要創造を行う。柏の葉エリアを新産業創造の拠点として、大学、企業、行政が柔軟に連携した創業支援環境を整える。

重点施策	1) ベンチャー育成の本拠地の設置と運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東葛テクノプラザや東大柏ベンチャープラザを活用した大学発ベンチャーの育成支援</li> <li>■KOIL（柏の葉オープンイノベーションラボ）の設置運営</li> </ul>
	2) 沿線ベンチャーの徹底的ハンズオン支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■TEPによるハンズオン支援の展開</li> </ul>
	3) ベンチャーの広域連携と国際的なネットワーク形成支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■沿線全体でのベンチャーどうしの交流機会や情報発信の場の創出</li> <li>■AEA（アジア・アントレプレナーシップ・アワード）の継続的開催</li> </ul>

**イノベーション**：従来のモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、大きな社会的変化を起こすこと。  
**KOIL**：企業・起業家などあらゆるビジネスの開かれたイノベーションを追求する空間。2014年春、柏の葉キャンパス駅西口に開設。  
**TEP/ハンズオン支援**：TEPは、TX沿線の大学・研究機関のポテンシャルを生かしてベンチャー企業を支援するためのコミュニティとして2009年に設立。ベンチャー企業に対して、資金的支援だけでなく経営・参画も含めた支援（ハンズオン支援）を行う。☞右ページ図  
**AEA**：アジアの若い起業家が一堂に会し、数日間にわたって開催される国際ビジネス・コンテスト。2012年より開催。

方針  
2-2

## 大企業や研究機関などに対する魅力を明確に発信し、立地を促し、新産業創造コミュニティを充実させる

国際競争力や社会経済活力の向上のため、東京大学・千葉大学をはじめとする柏の葉エリアの大学や、国立がん研究センター東病院等の研究施設の集積の活用、加えてTX沿線に集積する多くの研究機関等との広域的連携の強化により、環境・健康に関する世界水準の企業・研究機関の立地を促し、柏の葉独自の新産業創造コミュニティを充実させる。

重点施策	1) 新産業創出を牽引する大規模企業・研究機関等の積極的誘致・PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公・民・学それぞれのネットワークを最大限にいかした戦略的な企業誘致・PRの推進</li> </ul>
	2) 企業進出に係る土地条件の整理や立地促進策の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>■イノベーション・キャンパスにおける、居住・研究開発・業務・交流等の機能が複合した複合用途型産業創出地区の環境整備</li> <li>■大規模企業や研究機関等に対する助成や優遇策の充実</li> <li>■広域アクセスの向上に向けた国道16号の改善</li> <li>■直通バス運行による成田空港アクセスの改善</li> </ul>
	3) 「環境健康研究とビジネス」を柏の葉の主力産業として育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■FDC（フューチャーデザインセンター）による課題解決型ビジネスモデルの構築支援</li> </ul>
	4) 柏の葉エリア並びにTX沿線全体での新産業創造コミュニティ育成支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>■エリア内及び近隣地域での企業交流機会の充実</li> <li>■インターネット上での情報集約と発信・マッチング</li> </ul>

**イノベーション・キャンパス**：柏の葉キャンパス駅北側街区に構想されている複合用途型産業創出地区の呼称。☞右ページ図  
**FDC**：環境・資源問題、食糧問題、医療問題等の国家的課題の調査・分析及び問題解決の先進モデルの研究・実証を行うために2009年に設立。

方針  
2-3

## 既存産業の高次化、環境改善と競争力の強化を図る

地元企業と、大学等の技術者や研究者等とのコラボレーションによって、既存産業の高次化プロジェクトを推進し、新たな価値を創造する。また、新産業創出に向けた展開や施策を通して、既存産業の環境改善や競争力の強化を図る。

重点施策	1) 東京大学フューチャーセンターを核とした大学と地元企業の連携による技術やビジネスの革新	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東京大学フューチャーセンターの開設と運営</li> <li>■大学の教育・研究活動における地元企業との連携の推進</li> </ul>
	2) 植物工場研究拠点の成果を生かした新たな都市型農業の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■植物工場研究拠点の研究開発と連携した民間ベースでの植物工場の事業化</li> <li>■植物工場における生産物の地域内での流通促進</li> <li>■家庭用植物工場の実証と事業化</li> </ul>
	3) アートやデザインを通じた柏ブランドの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>■イノベーション・デザインプロジェクトの推進</li> </ul>

**東京大学フューチャーセンター**：東京大学と企業との共同研究・開発の推進を目的に設立され、2013年柏の葉キャンパス駅西口に拠点施設を開館。  
**イノベーション・デザイン・プロジェクト**：大学・企業・行政・デザイナーのネットワークにより、新たな商品開発を企画・実施するプロジェクト。

TX沿線の知の集積を活かしたベンチャー育成支援、地域の大学や研究機関と連携した企業・研究機関の立地促進や既存産業の高度化を通じて、世界水準の新産業創造環境を構築する

### ■土地利用戦略図

国際キャンパスタウンの実現に向け、教育研究機関の充実を図るとともに、柏の葉キャンパス駅から国道16号にかけて一帯を、複合用途型産業創出地区（イノベーション・キャンパス）と位置づけ、エリア全体における産業立地をけん引する。



### ■KOILと東大FC機構

東京大学フューチャーセンター推進機構の入る「東京大学駅前サテライト」、オープンイノベーションを追及するオフィス「KOIL」。この二つの拠点機能を最大限に生かし、新産業の創造を目指す。



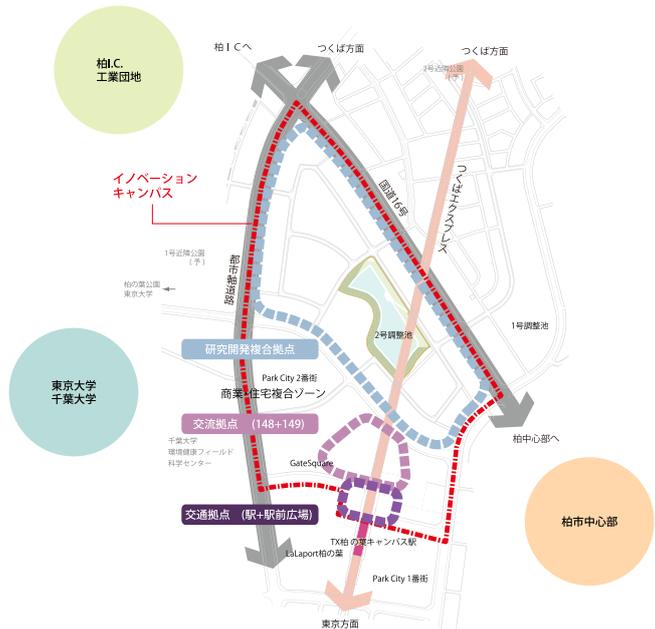
### ■千葉大学植物工場研究拠点

千葉大学植物工場研究拠点の研究開発と連携しながら、生産物の地域内での流通促進、民間ベースでの事業化など、新たな都市型農業の育成につなげる。



### ■イノベーション・キャンパス構想

148街区の交流拠点施設等と連携する形で、二本の幹線道路に挟まれた2号調整池周辺ゾーンは住宅一体型の研究開発複合拠点の形成を図る。



- 研究開発複合拠点(2号調整池周辺街区)**
  - 街に開かれたリサーチパーク
  - 先端企業の研究開発施設群
    - ・城北の2号調整池周辺街区に研究開発施設群を誘致。
    - ・交通ネットワークで大学や既存産業・研究機能等とつながる。
  - 水と緑に囲まれた空間形成
    - ・水と緑のネットワークで周辺の街とつながる
    - ・研究施設も地味に開かれた豊かなオープンスペースを持つ。
  - 居住近隣のコンパクトで、フレキシブルなキャンパス
    - ・住民と研究機能が融れあう技術のショールーム(ローム)
    - ・住民と研究機能と共に、SOHO、寮、研究者住宅など柔軟な土地利用
- 交流拠点 (148+149)**
  - 街の顔となる「大学・企業・市民・公共の交流施設」の配置
    - 産学連携の支援/ベンチャー育成
    - 大学の提供/大学研究者や小資本研究企業の受け皿
    - 会議施設
    - 展示施設
    - ホテル、会議室、大学施設、400名規模のホール
  - 駅前の公共施設整備
    - 住居の文化交流活動拠点としての公共施設整備。
    - 研究機能と居住機能の両方で、公共施設を共同利用を図る
  - 駅前活動のみえる化
    - 1階に交流施設を設け、駅利用者が駅前の交流活動が見えるような空間を創る。

### ■[TEP]の枠組み

TEP (TXアントレプレナー・パートナーズ) は、TX沿線における地域に根差したイノベーションのエコシステム構築のために、2009年11月に設立。地域の大学、研究機関、行政、民間企業、そして個人の専門家が連携する、日本で唯一のベンチャー企業支援コミュニティとしてさらなる発展を目指す。



### ■TXナレッジ・ネットワーク

日本有数の国立大学や研究機関が集積するつくばエクスプレス沿線のポテンシャルを活かして、日本経済の持続的成長を促す産業連携軸「TX-ナレッジ・ネットワーク」を構築する。



# 国際的な学術・教育・文化空間の形成

一生「学び」を楽しむことのできる、知的好奇心を刺激するまち

方針  
3-1

## 国際化に対応した生活環境を整え世界をリードする研究・教育機能を強化する 『10の研究・教育機関の誘致』

外国人研究者・学生等が暮らし活動する、国際キャンパスタウンにふさわしい街を目指して、外国人研究者等が暮らしやすい生活環境を創出する。世界レベルの研究機関の誘致・集積を進めるとともに、国際的な学会の開催等による学術交流を積極的に推進し、世界をリードする国際学術研究都市を形成する。

重点施策	1) 外国人向けの生活支援環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人向け・短期滞在者向けの住宅提供又は居住支援</li> <li>■外国人に常時対応可能な医療、子育て支援等の充実</li> <li>■外国人に対する情報提供・相談窓口の設置</li> <li>■インターナショナルスクールの誘致</li> <li>■街なかのサインや情報案内の外国語対応の推進</li> </ul>
	2) 世界レベルの研究機関の集積の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東京大学・千葉大学キャンパスにおける学部・大学院・研究所等のさらなる充実</li> <li>■土地条件や周辺環境の整備などによる教育・研究機関の立地環境の向上</li> <li>■研究機関立地への補助や融資等の優遇措置</li> </ul>
	3) 国際的な学術交流を促す空間とプログラムの整備・強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際会議が可能なホールや会議室の充実</li> <li>■民間企業や国際協力機関等のスポンサーによる世界各地との教育・研修プログラムの誘致</li> </ul>

方針  
3-2

## 世界の最先端で活躍する人材を育成する基礎的な教育環境を充実する

特色ある大学や高水準の幼稚園・小中学校・高校などの教育機関の誘致、ならびに、既存の学校における国際教育・科学教育等のプログラムの充実により、地域における基礎的な教育環境の向上を図る。

重点施策	1) 世界レベルの学生を育てる教育・生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■インターナショナルスクールなど特色ある教育施設の誘致</li> <li>■日常的に国際的な学術交流が行われる国際学生村構想の推進</li> </ul>
	2) 小中学校及び高等学校における質の高い教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■北部中央地区における中学校整備の推進と小中連携による教育環境の形成</li> <li>■東京大学・千葉大学と地域の高等学校との高大連携による高質な科学教育の推進</li> <li>■地域の人材や施設と連携した国際教育・社会教育プログラムの充実・強化</li> </ul>
	3) 子供を対象とした独自の教育プログラムの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大学と連携した子供向け教育プログラムの設置・開催（こども大学等）</li> <li>■ピノキオ・プロジェクトの定常化とプロモーション</li> </ul>

ピノキオ・プロジェクト：「子どもは街で育てよう！」のコンセプトのもと、実際の店舗でのお仕事体験をメインに2007年から開催している独自の教育プログラム。

方針  
3-3

## 大学と連携した住宅を提供し、学びのあるライフスタイルを推進する

大学と街の融合によって、独自の文化・学術空間を育むため、大学と地域が連携・交流する研究教育プログラムの実施や、市民利用が可能なキャンパス空間の整備等を行い、地域と大学とのクリエイティブな交流を活性化させる。

重点施策	1) 大学の教育プログラムと連携したキャンパスリンク住宅の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大学教育と連携したプログラムがついた一般住宅の供給促進</li> <li>■研究者のための柔軟性の高い住宅の供給促進</li> </ul>
	2) 地域と連携した実践的な教育プログラムや大学の研究活動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■フィールド型の演習スタジオの実施</li> <li>■学生による地域活動の支援（助成、連携等）</li> </ul>
	3) 大学の地域開放による、市民と大学が交流し学び合う場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>■駅前における大学と連携したまちづくり拠点の整備・拡充</li> <li>■大学図書館の24時間開館など、大学施設の開放と市民利用促進</li> <li>■所蔵図書や講義等、大学の「知」のデジタルアーカイブ化と公開</li> <li>■大学コンソーシアム東葛を通じた大学地域連携の促進</li> <li>■市民科学を創造するカレッジリリックプログラムの実施</li> <li>■先端的な取組みに触れながら、実践を学ぶまちづくりスクールの実施</li> <li>■「街まるごとオープンキャンパス」の実施・拡大</li> </ul>
	4) 生活レベルでの国際交流環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■柏市国際交流協会（KIRA）を中心とした国際交流プログラムの充実</li> </ul>

大学コンソーシアム東葛：まちづくりの幅広い分野で大学と地域及び大学間の協働を促進する場として、東葛エリアの11大学と5市が参加して設立。  
街まるごとオープンキャンパス：東大・千葉大の秋の一般公開を核に、「学び」をテーマにしたイベント連携・施設連携による来街促進プロモーション。

大学を拠点に世界をリードする教育研究機能を充実するとともに、これらの「知」の資源や国際性のあるまちの環境を、次の時代を担う人材育成や一生知的交流を楽しめるライフスタイルの実現につなげる

## 方針 3-4 国際キャンパスタウンにふさわしい文化活動・芸術活動を育成する

学術・産業面のみならず、文化・芸術面においても創造性に富んだ、気づきと刺激のある街の環境形成に向けて、地域のアーティストやアートイベントを育成・支援するとともに、広域的な連携を図る。

重点施策	1) 地域連携による広域での文化・芸術活動の推進	■常磐線、TX沿線地域におけるアート団体・プロジェクトの連携促進
	2) 文化・芸術をテーマに人々が柏の葉に集まり交流するための「場」づくり	■国際キャンパスタウンにふさわしい、文化・芸術のための場の創出とイベント実施
	3) 学生・若者やクリエイターの居住促進	■学生やクリエイター向けの住宅共有の促進や優遇制度の整備

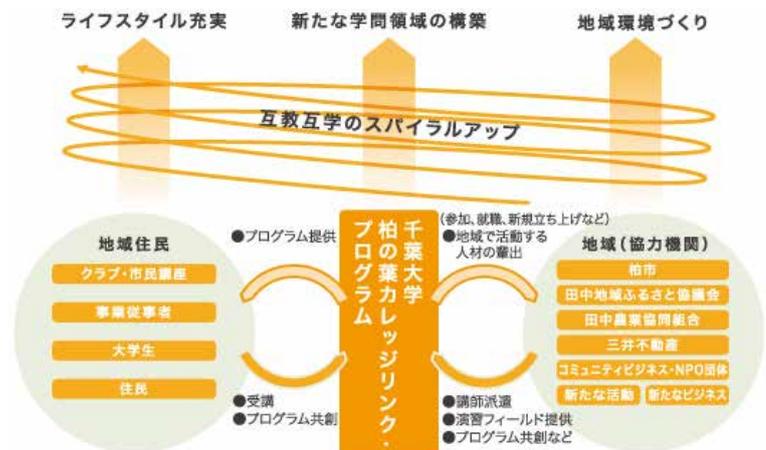
### ■国際的な学習交流空間の形成

柏の葉キャンパス駅周辺から千葉大学を経て東京大学に至る「学園の道」を中心に、国際学術研究都市を支える教育研究機能と、外国人や研究者の暮らしを支える機能を充実させ、知的交流があふれるキャンパスの環境をまち全体で整える。



### ■地域・大学連携による学習プログラム

大学の知を活かしながら、まちに係る多様な主体が学び合いながら、新たなまちづくりにつなげる独自のプログラムを展開する。



【千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラムの概念図】

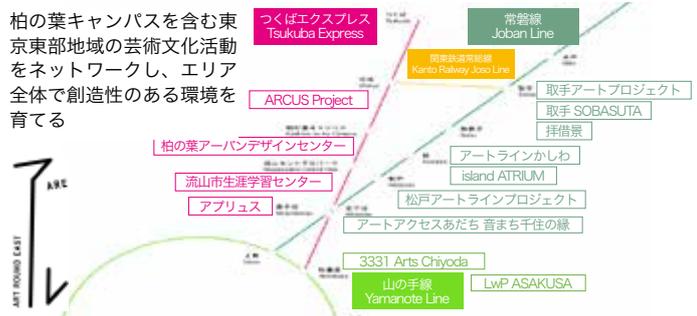


### ■地域連携型子育てプログラム



### ■ネットワークによる芸術文化活動の推進 ARE (アール)

柏の葉キャンパスを含む東京東部地域の芸術文化活動をネットワークし、エリア全体で創造性のある環境を育てる



# サステナブルな移動交通システム

環境負荷が少なく、自由で楽しい移動交通が、暮らしの質を高め活力を育むまち

## 方針 4-1

### 公共交通の充実により環境負荷の低減および都市間・地区内の移動を円滑にする

持続可能な環境型都市交通の先進的なモデルとして、TOD（公共交通志向型都市開発）の理念に基づき、①広域交通のゲートウェイ機能の強化、②地区内交通機能の強化、並びに、③柏中心市街地の既存の大きな商業・業務集積へ柏の葉エリアからアクセスする公共交通軸の強化を図り、柏の葉エリアの利便性・拠点性の向上を図る。

#### 重点施策

- 1) 次世代型環境都市モデルに相応しい公共交通システムの導入
- 2) 柏の葉エリアと柏中心市街地2つのコアを中間地域も経由しながら結ぶ公共交通の利便性向上

- 既存の路線バス・企業バス等をベースにした新たな域内循環バスサービスの構築
- 電気自動車やITSの導入など次世代型の公共交通システムの導入
- 駅前広場の効率的な運用、機能集約等の検討
- 道路整備と合わせた既存の幹線バスの再編・拡充による利便性向上
- 電気自動車やITSの導入など次世代型の公共交通システムの導入

TOD : 公共交通機関に基盤を置き、自動車に依存しない社会を目指した都市開発。

ITS : 高度道路交通システム。情報通信技術を利用して交通の輸送効率や快適性の向上に寄与する一連のシステム群を指す総称名。

## 方針 4-2

### 歩行者と自転車の楽しい移動を促すネットワークをつくる『自転車分担率の10%増加』

持続可能な環境都市を実現するため、柏の葉キャンパス地区の交通については、環境負荷の小さな自転車の最大限の活用と、歩くための環境の充実を図る。特に柏の葉エリアが自転車利用に適した立地条件であることを活かし、自転車の利用しやすい環境整備と利用の仕組みを確立、自転車利用の普及促進を図る。

#### 重点施策

- 1) スマートな自転車利用を促すための自転車走行空間のネットワーク整備と駐輪場の戦略的な配置と整備
- 2) サイクルシェアリングシステムの利便性向上と拡大
- 3) 地域資源を活かす魅力ある歩行環境のネットワーク形成

- 柏の葉エリアにおける自転車走行空間のネットワーク拡充
- 民間開発と連携した駅周辺における駐輪場の計画的確保

- かしわスマートサイクルのポート拡充と利用増加による自立運営化

- アーバンデザイン戦略に基づく、気持のよい歩行環境ネットワークの充実

かしわスマートサイクル : 柏市北部エリアを中心に、2010年より社会実験として運営されている自転車の共同利用システム。

## 方針 4-3

### 自動車利用を減らすため総合的な施策を展開する『自動車分担率の10%低下』

移動に係るCO<sub>2</sub>排出量の削減に向け、安易な自動車利用を抑制するためのシェアリングシステムやパークアンドライドの構築、電気自動車等の低環境負荷型車両導入、その他市民意識の啓発など、総合的な施策を展開する。

#### 重点施策

- 1) カーシェアリングの実施などによる自動車利用の削減
- 2) 環境に優しいモビリティの導入と利用の促進

- カーシェアリングに係る社会実験の展開
- 駅付近やまちの外縁部におけるP&Rの導入

- カーシェアリングや公共性の高い自動車における低環境負荷型車両の積極導入
- 電気自動車等の環境負荷の低い自動車を優遇する交通マネジメント

パークアンドライド (P&R) : 自宅から自家用車で駅やバス停まで行き、駐車させた後、公共交通機関を利用して都心部等の目的地に向かうシステム。

## 方針 4-4

### ITS情報システムを活用したモビリティマネジメントを行う

ITS実証実験の成果を生かし、地域の交通情報の収集・分析を効果的に行うとともに、これを適切に提供することで、利便性・快適性が高く環境負荷の小さいモビリティ選択を促すマネジメントを実現する。

#### 重点施策

- 1) ITSを活用した交通情報の収集・分析・提供システムの構築
- 2) 交通に係る情報集約と案内を行うコンシェルジュ機能の設置

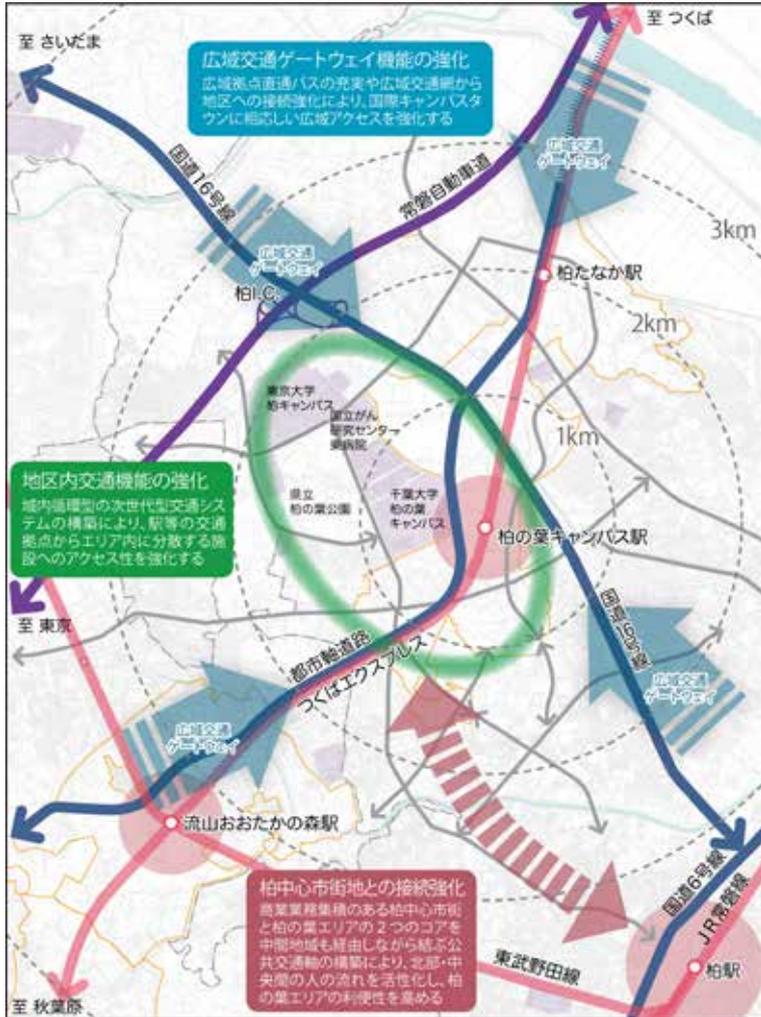
- ITS地域研究センターの構築
- カーナビや携帯電話、デジタルサイネージ等を活用した手に届きやすく、わかりやすい情報提供方法の確立

- 駅前において、ITSを利用しつつ人が介在する柏の葉エリアの総合案内所の設置

公共交通や自転車の利用促進、環境負荷の小さい自動車の普及・活用など、最先端の技術で環境負荷の低い（スマート）、行動の選択肢が充実した自家用車依存が不要（マルチモーダル）な姿を理想とした交通環境を整える

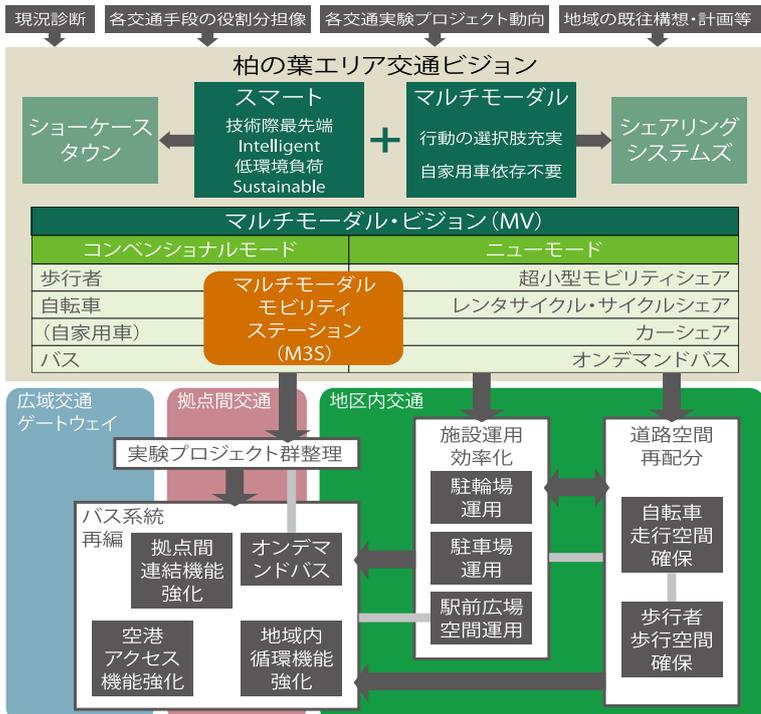
■移動交通に係る3つのテーマ

柏の葉エリアを中心に、「広域交通ゲートウェイ」、「地区内交通」、「柏中心市街地との拠点間交通」の3つを主対象に、持続可能な次世代型の移動交通システムを構築する。



■マルチモーダル・ビジョン

新たな交通手段（ニューモード）の実証実験結果を取り入れ、既存モードと組み合わせながら、「スマート」+「マルチモーダル」な移動交通環境を実現する。



■自転車先進的領域と柏の葉エリアの自動車分担率削減目標

	基準	自転車	自動車	バス・公共交通	徒歩
オフィス (デンマーク)	分担率	現況 1998 20%	50%	30%	—
		目標 2005 24%	46%	30%	—
ティルブルグ (オランダ)	トリップ	現況 1990 36%	36%	3%	25%
	増減率	目標 2000 42%	32%	6%	25%
ニルラインヴェストファーレン州 (ドイツ)	トリップ	自転車トリップ20%以上にする			
柏市 (PT調査)	分担率	現況 1998 (市全体) 17.2%	36.5%	1.4% (バス)	21.8%
		目標案 2018 (柏の葉エリア) 27.2%	26.5%	23.1% (鉄道)	—

出典：最近のヨーロッパ自転車政策1998.3 (財) 自転車産業振興協会

■シェアリングの社会実験

パーソナルモビリティ（個人移動）については、スマートサイクルを軸に、環境負荷の小さいモビリティのシェアリングシステムを拡充する。



■交通マネジメント体制の構築

多様な交通モードサービスの拠点としてマルチモーダル・モビリティ・ステーション（M3S）を設置するとともに、運行事業者・関連企業も含めた総合的な交通マネジメント体制を構築する。



■ITS 基盤構築イメージ

都市交通に係る多様な情報を収集・解析し、利用者への情報提供や今後の交通政策に活かすデータベース化を行う ITS 基盤システムを構築する。



方針  
5-1

## 健康で快適な暮らしを支える生活空間、歩行環境を充実させる

都市的魅力だけでなく自然的魅力をも享受できる環境の中で、日常的に歩きたくなる街の環境を整える。また歩くことを支援する情報提供やプログラムの充実を図る。

重点施策	1) 歩きやすく快適・安全な歩行空間ネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■区画整理エリア内における歩行空間のモデル整備</li> <li>■大学構内や官公庁施設等の一般開放の促進</li> </ul>
	2) 休憩場所やサインなど、歩くことを支える施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>■街なかにおけるベンチや休憩施設の計画的な整備と案内の充実</li> <li>■コース設定とマップやサインなどによる情報提供の充実</li> </ul>
	3) 歩くことによる健康づくり推進のためのイベントや支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ウォーキングやマラソンなどのイベントの定期開催</li> <li>■健康づくり活動拠点としての柏の葉公園の活用促進</li> </ul>

方針  
5-2

## 農や食の文化を育む空間と生活を充実させる

地元農家の協力と地域住民の参加のもと、農協、大学等とも連携し、身近に存在している農地の維持・活用と、地産地消を基本とした環境の中で、食を通じた健康と食文化の醸成を通して、体験や交流、新たな文化を育み、豊かな生活を実現する。

重点施策	1) 農のあるライフスタイルを実現する施設やプログラムの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農業体験農園の整備と運営（柏たなか農あるまちづくり）</li> <li>■市民菜園の整備と運営（柏の葉キャンパス駅周辺）</li> </ul>
	2) 農や食、健康をテーマにする市民の学びの場の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■食と健康に係る学習プログラムの実施</li> <li>■ワンデイシェフやコミュニティレストラン等の実施</li> </ul>
	3) 地域の食文化の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農商工大連携による、地域の食のプロモーション活動</li> </ul>

ワンデイシェフ：プロではない一般の主婦やOLや学生などが、日替わりで食事を作って提供するお店の運営方法のこと。

コミュニティレストラン：地域で安全で安心できる食事を提供しながら、地域住民が集まり、交流する場。NPOの起業モデルとしても着目。

方針  
5-3

## 人々が生きがいを持って支え合うコミュニティを育む

いくつになっても地域の中で生き生きと暮らし続けられるよう、世代を超えて人々がつながり、支えあえるコミュニティを育む。

重点施策	1) まちのクラブ活動等を通じた地域コミュニティの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちのクラブ活動の持続的運営</li> </ul>
	2) 社会協働支援プラットフォームの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の支え合いによる子育てサポートプログラムの推進</li> <li>■元気高齢者の社会参加支援プログラムの推進</li> </ul>

方針  
5-4

## 最先端の知識と技術を用いた健康サポートを行う

千葉大学予防医学センターや国立がん研究センター並びに地域の医療機関等と連携して先進的な健康管理プログラムを構築・導入し、健康にかかわる専門的サポートが日常的に受けられる地域環境を整える。

重点施策	1) 街の健康ステーションの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■健康予防を総合的にサポートする健康ステーションの整備と運営</li> <li>■東大などが連携する10坪ジムなどの健康モデルの普及</li> </ul>
	2) 個人の健康情報管理システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■電子カルテと連携した個人健康情報（PHR）管理システムの構築と運営</li> </ul>
	3) 「ケミレスタウン」の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ケミレスタウンの実験成果を活かした健康志向住宅の普及</li> </ul>

10坪ジム：小林寛道 東京大学名誉教授が開発した「認知動作型トレーニングマシン」を使って行う、新しいトレーニング施設。10坪（33㎡）ほどのスペースに地域住民が利用できる身近なジムとして、柏市内に8か所開設。

ケミレスタウン：化学物質が可能な限り少ないまちのモデルをつくり、シックハウス症候群などを未然に防ぐための実証実験として、千葉大学予防医学センターが2007年より実施しているもの。

日常生活の中での歩行や運動、農と食、地域とのかかわりあいを育むとともに、先進技術を生かして専門的に健康をサポートする仕組みづくりによって、一生健康で生き生きと暮らすことのできる柏の葉スタイルを創造する

■ TX 沿線の生活スタイルと“柏の葉スタイル”

都心型の秋葉原と、自然と研究機能を主とするつくばの中間点にあたる柏の葉では、その両面を備えつつ、環境・健康に配慮した高齢持続社会の新たなライフスタイルを築く。



■ 柏たなか農あるまちづくり

柏たなかエリアでは、“農あるまちづくり”をテーマに、農をテーマにしたライフスタイルや新たな都市型農業の育成・支援、農ある景観形成を継続的に推進する。



■ ウォーキングイベント（イメージ）



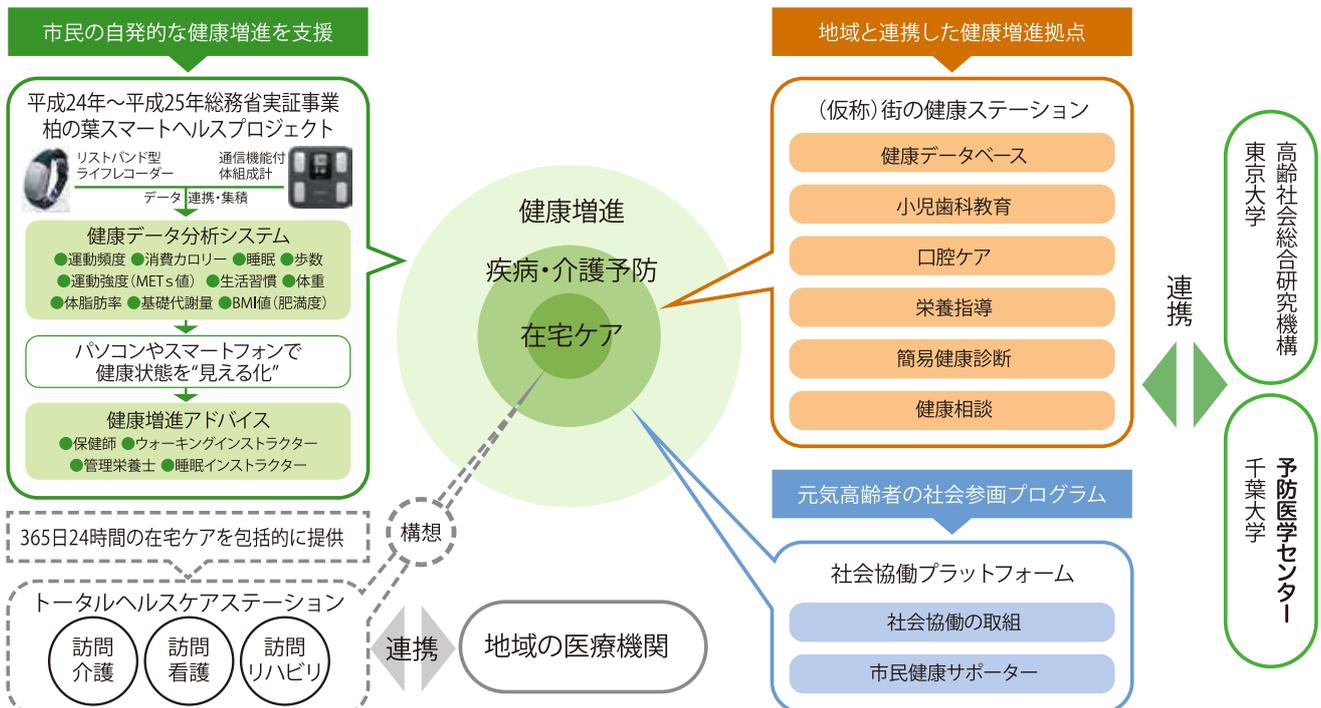
■ 世代を超えて人々がつながり支え合う地域コミュニティの育成



（上：コミュニティ放送 / 下：まちのクラブ活動イベント）

■ 健康未来都市概念図

健康な方はより健康に、未病や近い将来に介護が必要になる方々には予防を、そして介護が必要になった方々には手厚い在宅ケアが提供される。すべての市民が身体の状態に不安なく過ごすことができる街の創造を目指す。そのために市民をはじめ医療機関、研究機関など、街のすべての主体を連携させた健康・医療システムを構築。“柏の葉モデルによる健康ライフスタイル”をつくり出す。



# 6 公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施

目標 支えあいによって地域の暮らしと活力を持続・向上させる自律的なまち

## 方針 6-1 暮らしの質を高め、地域への愛着を育む (住民満足度の維持・向上、地価水準の維持)

参加意欲を喚起するプログラムや、意欲ある住民の活動を皆で支援する仕掛けづくりによって、地域の安全性・快適性の向上や、健康で楽しく暮らし続けられるコミュニティの形成に貢献する地域住民や地域企業の主体的な活動を育む。

重点施策	1) 地域ポイントプログラムにより環境・健康・創造・交流を促進する活動をつなぎ促進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域ポイントプログラムの利便性強化と機能拡張（交通系ICカードとの連携、電子マネー機能等）</li> </ul>
	2) 地域住民や地域企業等で構成する「まちづくり協議会」を強化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域美化・緑化活動の推進</li> <li>■ 地域環境活動の推進（エコ・リサイクル活動等）</li> <li>■ 地域防災・安全活動の推進</li> <li>■ 地域健康・福祉活動の推進</li> </ul>
	3) 地域の祭りや文化的な催事を活性化し独自の文化と愛着を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ふるさと田中みこし祭りの実施</li> <li>■ 夏まつりやハロウィンなどコミュニティが主体となった祭りの実施</li> </ul>

地域ポイントプログラム：まちづくり活動や社会実験に参加するとポイントが貯まり、貯めたポイントを再びまちの活動やプログラムで使うことができるプログラム。「柏の葉ポイントプログラム」として2013年より開始。☞右ページ図

## 方針 6-2 柏の葉独自の価値を育み、発信する (交流人口の増加、外部からの評価)

柏の葉のアイデンティティを明確にした空間形成や、空間や人の地域資源を最大限に生かした独自性の高いイベント・プログラムによって、地域プロモーションを行う。またこれを多様なメディアを通じて戦略的に発信することで、広域的な魅力を一層高める。

重点施策	1) 一体的なデザインマネジメントで地域アイデンティティを確立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 柏の葉のロゴ・サイン等の企画と展開</li> <li>■ 街のサイン計画と管理</li> </ul>
	2) イベント連携により年間を通じて効果的なプロモーションを実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域と大学連携のプロモーション「街まるごとオープンキャンパス」、みどり・健康・交流をテーマとする「お花見ピクニック」等のイベント連携</li> </ul>
	3) 広報ツールをつかったPR戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インターネットやマスコミを活用した外に対する街の情報発信</li> <li>■ 視察・研修の受け入れ体制の整備とガイドツアーの実施</li> <li>■ フィルムコミッション・アーツコミッション等の体制づくり</li> </ul>

フィルムコミッション/アーツコミッション：フィルムコミッションは、地域の活性化、文化振興、観光振興を図ることを目的に、映画等の撮影場所誘致や撮影支援をするために、行政等が中心になって各地域で設立されている機関。アーツコミッションは、同様の目的で、アーティストやクリエイター、アートNPO、市民等の“創造の担い手”の活動を支援するために設置される機関。

## 方針 6-3 柏の葉キャンパス駅周辺を起点に公・民・学の連携による自律した都市経営の仕組みを整える

持続可能な都市の形成を目指し、住民やNPO、企業、行政、研究機関等の多様な主体が長期にわたって協働による都市づくりを進めていくための自律的な都市経営の仕組みを構築する。柏の葉キャンパス駅周辺地区においてモデル構築を図り、これを周辺に展開する。

重点施策	1) 地域まちづくり団体の参加で計画をつくり、公・民・学連携で実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 町会・自治会や市民活動団体の参画によるエリアマネジメント計画の策定と実施</li> <li>■ 大学と連携した市民組織「カレッジリンクネットワーク」の育成と担い手としての活用</li> </ul>
	2) 地域内の施設・機能の連携促進による運営の効率化と利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各施設・機能の外部開放の推進ならびに、類似機能の維持管理の一体化・効率化</li> <li>■ 利用者が主体となった施設・機能の柔軟な管理運営の促進</li> </ul>
	3) 公・民・学の連携による構想のフォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 構想の継続的な推進・フォローアップ体制の確立</li> <li>■ 構想の周知・共有の推進</li> <li>■ 構想の推進事務局としてのUDCKのまちづくり拠点化の推進</li> </ul>

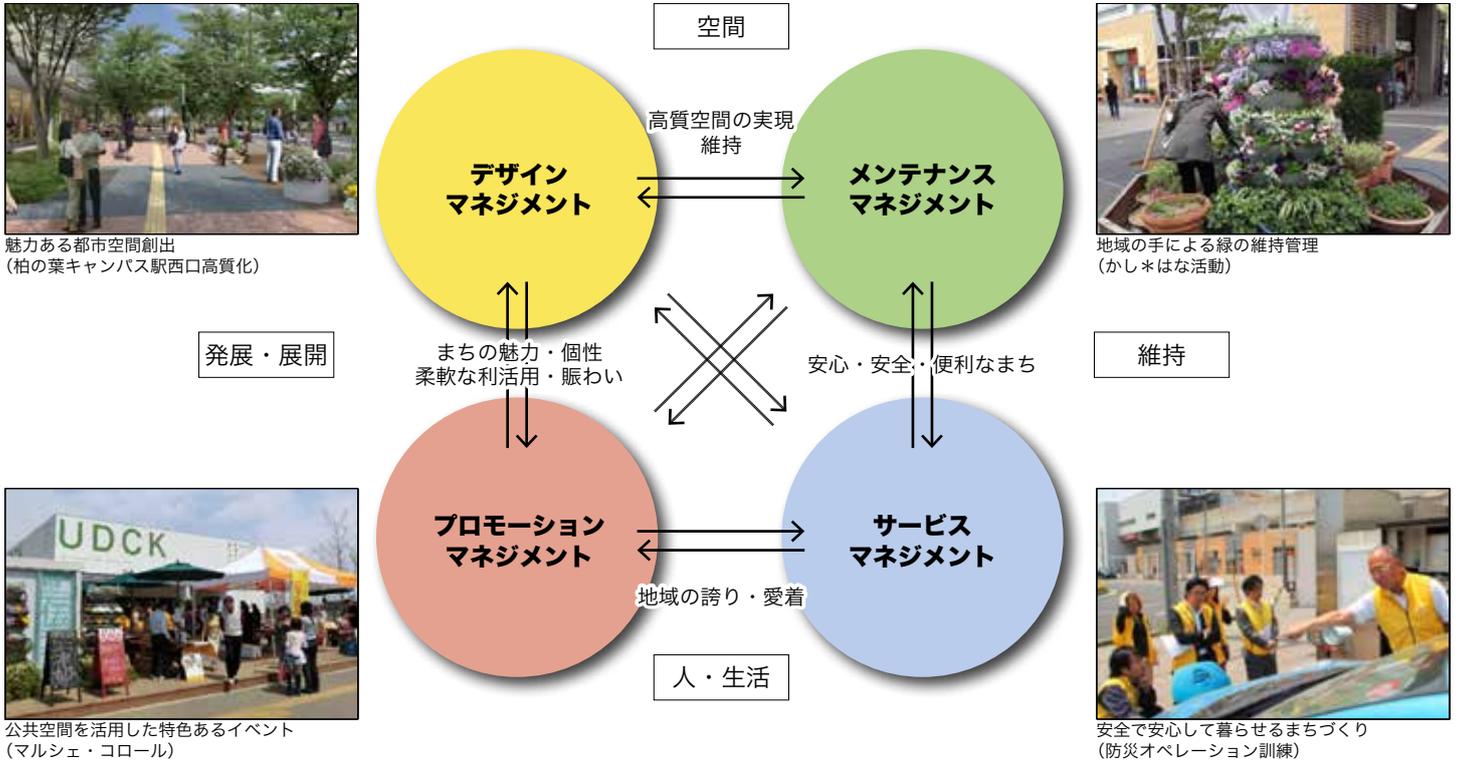
カレッジリンクネットワーク：千葉大学が実施している市民学習プログラム「柏の葉カレッジリンク・プログラム」の修了生が中心となって2012年に設立した法人。カレッジリンク・プログラムから生まれた企画や着想を事業として行い、地域や社会への貢献を推進する。

エリアマネジメント：地域環境や地域の価値を維持・向上させることを目的とした、地域住民や地域企業などによる自主的な取組みのこと。

公・民・学の連携を生かした柔軟な役割分担の枠組みを構築し、地域全体の価値・愛着・誇りを地域全体として自律的に育み、持続させるエリアマネジメントを行う

■エリアマネの枠組み 4つのマネジメント

より質の高い空間形成を主導する「デザインマネジメント」と、整備された空間の維持管理や活用を担う「メンテナンスマネジメント」、対外的な魅力発信や交流促進を行う「プロモーションマネジメント」と、住民や従業者等のための安全・安心で利便性の高い生活環境を維持する「サービスマネジメント」。この4つのマネジメントを意識しながら、エリアマネジメントの目的を整理し、各者の役割分担や運営体制を構築する。



■柏の葉ポイントプログラム

柏の葉で展開する様々なプログラムをつなぐ「CAMPUS CARD」とポイントプログラム。さらに内容を充実させながら、地域での支え合いと積極的なまちづくりへの参加を促す。

柏の葉ならではの先進サービスの利用

- スマートサイクル
- 街乗りシェアリング
- 公衆電源
- プロジェクトハウス

まちづくりや社会への貢献

- 地域ボランティア活動
  - ・地域清掃活動
  - ・緑の維持管理
  - ・コミュニティ活動支援
  - ・地域イベントサポート 等
- 環境活動
  - ・仮定での省エネ活動
  - ・リサイクル活動 等
- 実証実験モニター

1枚のカードで共通認証可能  
ポイント利用も

KASHIWANOHA CAMPUS CARD UDCK

その他特別体験・商品・サービス等へのポイント還元

- 地域お買物券
- 地域お食事券
- 地域関連書籍
- 市民活動関連グッズ

■情報発信・イベント連携

UDCKを拠点に、多様なメディアを活用して、対外向け・地元向けそれぞれ、積極的な情報発信を行う。

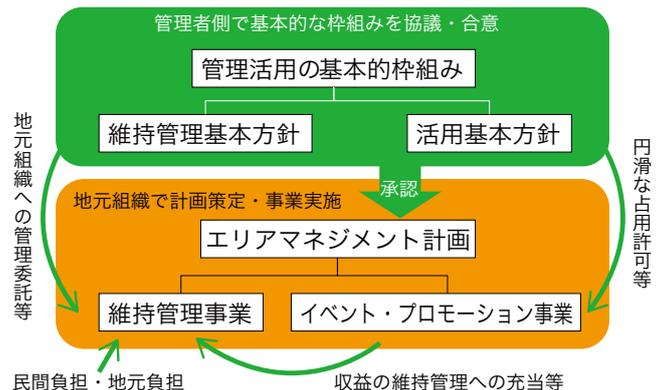


■柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会のエリアと主な活動テーマ

- ①防災に関する活動**
  - ・防災活動連携マニュアルの作成
  - ・「防災ひろば」イベントを通じた啓発と訓練
- ②環境美化に関する活動**
  - ・駅前清掃活動
  - ・駅前周辺及び地域の緑の管理への協力
- ③健康福祉に関する活動**
  - ・健康施設巡りウォーキング等のイベント
  - ・子育て支援活動「赤ちゃん・ババママあつまれ！」
- ④交流に関する活動**
  - ・地域交流イベントへの参加・協力

■柏の葉キャンパス駅周辺のエリアマネジメント

高質化された柏の葉駅西口を中心に、公共空間の維持管理と活用を地元主体で推進し、キャンパスタウンの玄関口に相応しい都市環境を創出する。



方針  
7-1

## 国際キャンパスタウンを象徴する緑溢れるオープンスペースと街並みを形成する

柏の葉エリア全体において、緑豊かで人々の自由な活動が展開するキャンパスのような空間と街並を形成する。特に、柏の葉キャンパス駅、千葉大学、東京大学を結ぶL型の都市空間を「学園の道」と位置づけ、両大学の施設や隣接施設が協調して、国際キャンパスタウンの象徴となる空間を形成する。

重点施策	1) 柏の葉を印象づける骨格街路と街の入口を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>■緑の骨格街路としての都市計画道路等の緑化・景観誘導</li> <li>■キャンパスタウンの領域をつくる街角の空間演出</li> </ul>
	2) 国際キャンパスタウンの環境モデル地区をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■柏の葉キャンパス駅周辺地区の国際キャンパスタウンのコアとしての創造的な都市環境形成</li> <li>■2号調整池周辺における環境共生型の都市環境形成</li> <li>■柏の葉公園周辺地区の良好な既存環境の保全</li> </ul>
	3) 大学が街へ広がる「学園の道」をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大学内における街へ開いた都市空間整備（千葉大学柏の葉キャンパス・東京大学柏IIキャンパス・東京大学駅前総合研究棟）</li> <li>■キャンパスタウンの風格と賑わいを表出する駅前通りの景観誘導</li> </ul>

方針  
7-2

## 豊かな緑地環境と都市の活力とが調和した緑園のまちを形成する

既存の豊かな緑地環境を生かしつつ、緑あふれる都市環境を創造する。特に、こんぶくろ池公園、147・148 街区、駅、151 街区を貫き、柏の葉小学校・公園用地に至る経路と沿道を「緑園の道」と位置づけ、親密で快適な環境健康都市を象徴する都市空間を形成する。

重点施策	1) 緑の中に多様な活動が見える「緑園の道」をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■街路空間と協調した沿道緑化誘導</li> <li>■沿道における生活機能誘導とオープンスペースの一体的活用による賑わいづくり</li> </ul>
	2) 過去と未来をつなぐ水・緑の拠点を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■こんぶくろ池公園を核に緑の環境を広げる</li> <li>■正連寺地区を拠点とした水と緑のネットワーク形成</li> <li>■野馬土手遊歩道を軸とする緑豊かな地区環境整備</li> <li>■地域の自然条件を踏まえた植栽の種類や配置の推進</li> </ul>
	3) 農あるまちなみ景観づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「柏たなか地区：風景づくりの手引」を用いた景観誘導</li> </ul>

方針  
7-3

## UDCKを中心にアーバンデザインを推進する

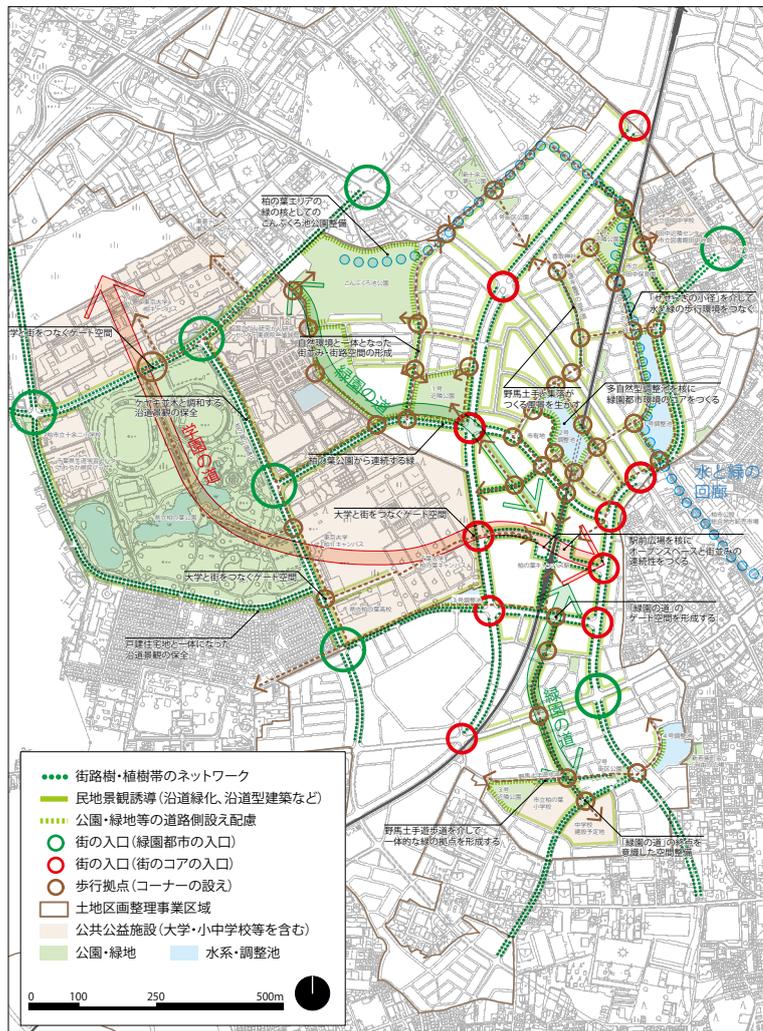
柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）を核に、キャンパスタウンにふさわしい空間計画を定め、これを実現する仕組みとプロセスを整え、地域とともに推進する。

重点施策	1) 空間デザインを戦略的に進める共通指針を定める	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本構想を踏まえた柏の葉アーバンデザイン戦略の策定と共有</li> <li>■景観重点地区の拡大など柏市景観計画の内容の充実</li> </ul>
	2) デザインマネジメントの仕組みを構築し、実践する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校等の公共施設の建設に際してデザインコンペやデザインレビューの実施</li> <li>■景観形成基準等の充実と保留地や公有地等を活用した先導的な景観形成の推進</li> <li>■地域主体の景観協議の推進</li> <li>■市民講座・まち歩き等の景観まちづくりの普及啓発</li> </ul>
	3) アーバンデザインにおける柏の葉モデルをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■郊外住宅、商業施設、公共施設等に係るモデル的な環境デザインの実現</li> </ul>

デザインレビュー：計画・設計審査会。より良いデザインの建築物を誘導するための協議調整システムであり、主だった開発行為や建築活動の計画・設計案に対して、第三者的な専門家（機関）が評価し、改善のための助言並びに協議・調整を行うもの。

■柏の葉アーバンデザイン戦略 (内容の抜粋再構成)

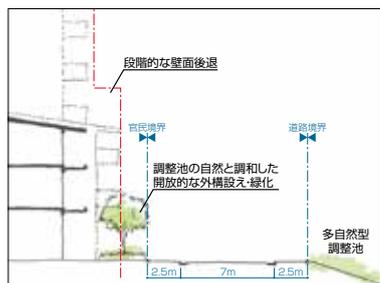
①建物・道路・空地など「都市空間の骨格」の整備、②緑豊かなキャンパスと街が融和した「創造的環境」のネットワーク化、③最先端の知・産業・文化を育む「都市活動の場」の形成の3点を理念に戦略を策定。これに基づき、質の高い空間デザインを推進する。



■柏の葉アーバンデザイン戦略 個別戦略と空間形成イメージ (抜粋)



「街の入り口」となるまちかどを整える (左：街区角における広場空間 (二番街)、右：街区角のシンボルツリー (柏の葉小))



地区を象徴する緑園都市環境のコアをつくる (2号調整池周辺街区断面イメージ)



駅前広場を核にオープンスペースと街並みの連続性をつくる (東西駅前広場のオープンスペース連続性創出)

■学園の道のイメージ

駅周辺から千葉大学を経て東京大学に至る「学園の道」沿いでは、市民に開かれた交流の場を創出しつつ風格ある街並みを形成する。



■緑園の道のイメージ

主要な緑の拠点と駅をネットワークする「緑園の道」沿いでは、沿道敷地と一体となって、緑が連続し活動が表出する空間を形成する。



■普及・啓発活動

市民向けのフォーラムや市民講座、まち歩き、参加型のデザインコンペ等を通じて、都市空間デザインに係る市民意識啓発を図る。これらを通じて、地域主体の景観協議を推進・普及する。



方針  
8-1

## 実証実験の支援と実現プログラムを提供する

柏市内や柏の葉をフィールドとする大学・企業の研究や実証実験に対し、地域連携のサポートや地域データの提供といった総合的な支援体制を充実・強化する。

重点施策	1) 実証実験・研究に係る市民参加を促進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域カード、地域ポイントプログラムと連携した市民モニター制度の構築</li> <li>■実現性・実施効果を高めるためのプロジェクト連携のコーディネート</li> </ul>
	2) 国の支援制度や特区制度などを活かした先進的取組みへの総合的な支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>■特区制度を活用した規制緩和等の実施・拡大</li> <li>■環境未来都市等を活かした国からの補助や企業投資の呼び込み</li> <li>■大学敷地・民間敷地に加え、公共空間も活用した先進的取組みの実験</li> </ul>
	3) 実証実験など地域データベースを蓄積し提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実証実験に係る最新情報の把握と地域での総合的・長期的なモニタリング、データベース化</li> </ul>

方針  
8-2

## 企業や研究機関へのPRを通じて新たな実証実験を呼び込む

柏の葉における公・民・学が一体となった先進的な取り組みを国内外に発信し、世界から研究開発プロジェクトを呼び込み、各種人材や関連機関の集積を促す。

重点施策	1) リサーチコミッションを設置する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■企業や研究者、研究機関からの提案に対するマッチングや情報提供の実施</li> </ul>
	2) 実証実験を呼び込む都市プロモーションを実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■セグウェイやシェアリングシステム等の新モビリティによる交通プロモーションの実施</li> <li>■デジタルサイネージ等を活かした先進的取組みの街なかでの「見える化」の推進</li> <li>■企業や投資家への働きかけと研究や産業のPR</li> </ul>

**リサーチコミッション**：地域をフィールドにした研究開発プロジェクトや実証実験などを呼び込むために、企業や研究機関からの提案に対して、地域の空間や人的資源等とのマッチングや、情報提供等の支援を行う機関として独自に構想するもの。

**デジタルサイネージ**：表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタなどによって映像や情報を表示する広告媒体。

方針  
8-3

## 実験の成果を評価・蓄積するとともに、柏の葉モデルとして市全域・全国・世界に普及・展開する

実証実験等を通じて柏の葉で構築したモデルを、まず柏市内に、そして全国各地・世界各地に普及・展開するとともに、先進的取り組みを進める都市間での連携・交流を強化し、未来の都市像を提示するモデル都市としての位置づけを強固なものとする。

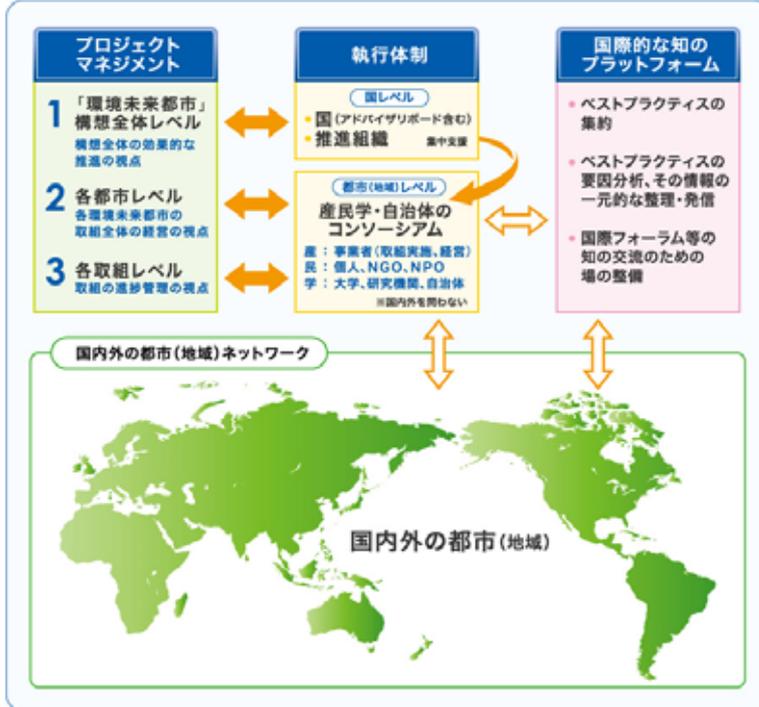
重点施策	1) 植物工場等の代表的な実験成果を普及・展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■植物工場・ケミレストアウン等の研究成果の地域への展開</li> </ul>
	2) 先進都市間連携・交流を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境未来都市等の先進都市間の緊密なネットワークの構築</li> <li>■コンベンションの誘致</li> </ul>
	3) 柏の葉エリアにおける視察・研修プログラムを確立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各種施設や大学が連携した街全体での視察・見学ツアーの実施</li> <li>■滞在型のまちづくり教育・研修プログラムの構築と実施</li> </ul>

**イノベーション・フィールド**：柏の葉エリア全体が、従来と異なる新しい技術や考え方を積極的に取り入れて、新たな価値を生み出し、新たな社会モデルの創造（＝イノベーション）に取り組むということ

世界の最先端の技術や文化が展開する都市として、実証実験の支援環境を整え、まちぐるみで取り組みながら、その成果を広く発信・普及する

■環境未来都市構想（出典：内閣官房地域活性化統合事務局）

柏市は、環境や超高齢化社会に対応したモデル都市「環境未来都市」に2012年度に選定。国の支援を受け、他都市とのネットワークを活かして、先進的な成功モデルの構築を図る。



■ネットワークを活かした成果の発信・展開

柏の葉でのモデル的な取り組みを、柏市の各エリアに展開するとともに、公・民・学それぞれのネットワークを活かして、その成果を全国へ世界へ普及・展開する。



■視察・研修ツアー イメージ

柏の葉の先進的な取り組みの体験や視察・研修のための受け入れ体制を整え、広く世界から人々が訪れやすい地域環境を育成する。



■地域住民モニターによる家庭用植物工場の実証実験

大学・企業等による新たな技術開発・商品開発プロジェクトと地域コミュニティをつなぎ、地域ぐるみでの実証実験・社会実験によって新たなイノベーションを促進する



■セグウェイ・次世代交通の実証運行

柏の葉をフィールドにした社会実験を通じて、新たなモビリティの可能性を探究し、次世代交通都市の実現とそのプロモーションを図る。また、その成果を他地域にも普及・展開する。



■デジタルサイネージ

駅前に設置されたデジタルサイネージや、他の広報ツールを最大限に活かし、まちで展開する先端的取組みの「見える化」を促進し、多くの市民の理解と参加を広める。





KASHIWA-NO-HA International Campus Town Initiative

柏の葉国際キャンパスタウン構想  
【2014充実化版】

柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会  
(千葉県+柏市+千葉大学+東京大学+UR都市機構+三井不動産)  
平成26年3月

KASHIWA-NO-HA